

関西学院大学主催
2023年度秋季人権問題講演会

総合テーマ：「インクルーシブな社会の実現を
目指して」(2020～2024年度)

～『はだしのゲン』から
「平和」を考える～

はだしのゲンが伝えたいこと

◆11/24(金) ●11:10～12:50 神戸三田キャンパス II号館102教室
●15:10～16:50 西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂

◆講師／渡部 朋子 氏 (特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima理事長)

◆参加方法／無料・申込不要

- ※ 本講演会では、手話通訳による情報保障を予定しています。
- ※ 講演会は、一部の内容を除き、後日、本学webサイト等での録画配信を予定しています。
- ※ 車イスでご来場の方は、お席の配慮等をいたしますので、事前にご連絡ください。
- ※ 公共交通機関でお越しください
- ※ 当日、録画・録音はお控えください。

■講演内容

映画「はだしのゲンが伝えたいこと」は漫画家・中沢啓治さんが、漫画「はだしのゲン」のストーリーの元になった自らの被爆体験を克明に語ったドキュメンタリー映画です。

「踏まれても、大地にしっかりと根をはり、まっすぐに伸びる麦のような人間になれ」という「はだしのゲン」のテーマは、中沢さんが渾身の力を込めて、子ども達へ贈る永遠の平和のメッセージでもあります。

聞き手、企画者としてこの映画製作にかかわった私の経験を皆様と共有し、更に中沢さんの戦争や原爆への怒り、命の大切さやかけがえない家族への思いを皆様とご一緒に考えたいと思います。

また、今日私たちは、ロシアによるウクライナ侵攻により核兵器使用の脅威に直面しています。この危機的な状況の中で、私たちに何ができるか、核問題の本質とは何か、今一度立ち止まって学生の皆様他と足元を見つめ考えたいと思います。

■講師紹介

被爆者の両親を持つ被爆二世。大学在学中に最愛の祖父を亡くしたことをきっかけに、広島に生まれ、育ったことの意味を探り始め、被爆者や被爆者を支えた人々の元を訪ね歩く。学びを深める中で「ヒロシマを知らぬ自分」を自覚し、その考察を卒業論文にまとめた。結婚後、3児の母となり、夫の法律事務所の事務局長を務める傍ら、アジアからの留学生を支援する活動を始め、1989年「アジアの友と手をつなぐ広島市民の会」を設立。2007年にはNPO法人格を取得、「ANT-Hiroshima」に改称し、理事長に就任する。数多くの広島の被爆者との出会いをベースに、広島の市民や子どもたち、広島を訪れる海外の研修生などを対象として、平和教育・平和文化交流を行う。あわせて、高齢化する被爆者の記録製作プロジェクトにも取り組む。また、アフガニスタン、パキスタン、ルワンダ、ネパール、フィリピンなど、紛争地や被災地、貧困にあえぐ国や地域での国際協力活動にも長年力を注いでいる。

【講演会のお問い合わせ先】 関西学院大学 人権教育研究室 (human-rights@kwansei.ac.jp)

©中沢啓治／広島平和記念資料館提供



～『はだしのゲン』から 「平和」を考える～

皆さんにとって、「平和」とは何ですか？

ある被爆者は「平和は、じっと待っていても来てくれない。力をつくして、引き寄せ、つかみ取り、みんなで懸命に守らないと、逃げてしまいます」と語りました。広島・長崎の被爆者は、「これからの未来を生きてゆく世代に、自分たちと同じ経験をさせたくない」その一心で、戦後78年経つ今もなお、「核兵器廃絶」を願い、声を上げて活動されています。**関西学院も、平和を実現する思いと行動に連なるために、本企画を開催します。**

『はだしのゲン』は、作者中沢啓治さんの実体験に基づき、戦争の悲惨さ、原爆の非人道性、その後の被爆者に対する差別などを真正面から描いた作品です。世界24か国語に翻訳・出版されているのは、国・世代を超えて原爆の実相をわかりやすく伝えているからだといえます。

現在、ロシアによるウクライナ軍事侵攻などによって、世界では、核兵器の脅威が高まっています。現代において、核は、安全上の問題だけではなく、人権問題、地球規模での環境問題とも密接に関わります。皆さんが、本企画を通じ、そのことについて触れ、考えることは、より良い社会の実現への一歩を踏み出すきっかけとなり、関西学院が目指す“世界市民”の姿にも繋がります。

平和を守り続けていく・築いていくためには、まず、一人一人が自分事として捉え、行動する一歩を踏み出すことが大切ではないでしょうか。本企画を通じ、一人一人が「平和への行動」を考え、自身が取り組む“Mastery for Service”を見出せる機会となることを願います。

関西学院 院長 中道基夫

「絵本はだしのゲン」複製原画展

◆11/15(水)～30(木)

◆西宮上ヶ原キャンパス / 大学図書館エントランスホール

神戸三田キャンパス / アカデミックコモンズ インフォメーションホール

*2023年は、漫画『はだしのゲン』が週刊少年ジャンプに連載されて50周年の記念の年です。

『はだしのゲン』は、主人公ゲンが、どのような逆境でも、前を向いて懸命に逞しく生き抜いていく姿から勇気もらえる作品でもあります。



映画上映会

◆『はだしのゲン』 (85分) 11/21(火) 17:00～

◆『はだしのゲン2』 (86分) 11/22(水) 17:00～

いずれも西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館(B1F)ホール

※ 公共交通機関でお越しください。

※ 上映会に車イスでご来場の方は事前にご連絡ください。



(c)(有)ゲンプロダクション

～『はだしのゲン』あらすじ～

原爆焦土と化したヒロシマで、たくましく生きぬく少年・ゲン！

太平洋戦争末期の昭和20年8月6日、広島市に一発の原子爆弾が投下された。目の前で父親と姉弟を失い打ちひしがれたゲンだったが、焦土と化した広島で、母と共に強く生きていく決意をする。その時、ゲンの母・君江の体には新たな命が宿っていた。

～『はだしのゲン2』あらすじ～

麦のように、たくましくまっすぐ生きる少年・ゲンの姿を描いた感動作、第二弾！

終戦から3年が経った広島市。そこには、母と弟代わりの隆太と共に、必死に生きるゲンの姿があった。だが、放射能を大量に浴びた母・君江の体は原爆症に蝕まれていく。原爆孤児のエンコウの政や勝子らと知り合ったゲンは意気投合、母の療養のためにお金を稼ごうと苦心するのだが……。